

■ フットサルルール（初心者向けルール解説）

ここで全てのルールを説明することはできませんが、初心者の方がルール違反をする よくあるケースをご紹介します。
 例えば、フットサルはサッカーとは違い、小スペースでのプレイなので、相手に対する接触行為はサッカーよりファールになりやすいのです。
 ルールはプレイヤーの皆さんが快適にプレイできるように作られています。ルールはしっかり守りましょう！

一部ローカルルールを適用しますが、原則として 2014 年に改正されたフットサルルールを採用します。

キックオフ	<ul style="list-style-type: none"> ・キックオフは、必ずボールを「前方に」出さなければなりません。違反した場合はやり直しとなります。 ・キックオフシュートが直接ゴールへ入っても得点になりません。 <p>※サッカーの協議規則は後方に蹴っても OK になりましたが、フットサルの協議規則は改正されていませんので注意してください。</p>
キックイン ファール 【ローカル適用】	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールをライン上またはラインの外側から 25cm 以内に静止させてください。 ・軸足(蹴り足ではない方の足) がラインを完全に越え、コートの内側に入ってははいけません。軸足がライン外側にあるか、ライン上に乗せてください。 ・ボールを蹴られる状態になってから 4 秒以内に再開しましょう。違反した場合、ボールがピッチに入らなかった場合は相手のキックインから再開となります。 <p>※キックインの際、相手側選手はボールより 5m(総当り、エンジョイ[下位]は 3m) 以上離れなければなりません。故意に離れない場合は、遅延行為・規定距離を守らないとして警告の対象になります。</p>
交代ルール	<ul style="list-style-type: none"> ・選手の交代をする際、サッカーとは違いレフェリーに申し出る必要はありません。インプレー中でも交代はできます。ただし、交代時は“自陣の交代ゾーン”を守りましょう。自陣のベンチ前に交代ゾーンがあります。 ・交代時はピッチにいる選手が完全に外に出てから、ベンチの選手がピッチに入らなければなりません。逆の場合、ピッチの選手が外に出る前にベンチの選手が中に入ると、ピッチ内に 6 人の選手がいることとなりますので、中に入った選手が警告の対象となります。
キーパーへの バックパス 【ローカル適用】	<ul style="list-style-type: none"> ・キーパーは、味方選手が足で出した意図的なパスを手で扱うことができません。 ・キーパーから出たボール（スローもキックも）は、相手選手がボールに触れるか、ハーフウェイラインを越えない限りキーパーへは戻せません。つまりキーパーへ戻せるのは、相手選手にボールを取られてから取り返した場合か、ボールがハーフウェイラインを超えた場合のみ認められます。 ・キックインからのキーパーへのパスは認められます。 <p>以上のルールに違反した場合は、キーパーがボールに触れた地点からの相手ボールの間接フリーキックからの再開となります。</p> <p>この違反がペナルティエリア内で起きた場合は、一番近いエリアライン上からの間接フリーキックとなります。</p> <p>それ以外の場合は、その時点からの間接フリーキックとなります。</p> <p>※キーパーが、相手陣内に居る場合は、バックパスルールは適用されません。</p>

<p>ゴール クリアランス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールクリアランスとは、サッカーで言うところのゴールキックに相当しますが、フットサルの場合は、キーパーがボールを手で投げて再開します。 相手ゴール前まで投げて構いませんが、味方選手は自陣のペナルティエリア外でボールを受けなければなりません。 以上のルールに違反した場合は、やり直しとなりますが、繰り返し行為は遅延行為として警告の対象となります。 ※ゴールクリアランスはアウトオブプレー時の再開方法であって、インプレー中はスローでもキックでも構いません。 ※インプレー中は味方選手が自陣のペナルティエリア内でボールを受けても、違反にはなりません。 ※キーパーからのボールを味方選手が受けて、そのままキーパーへパスを出して、キーパーが自陣で受けてしまった場合、バックパスとなり反則となります。
<p>スライディング ファール 【ローカル適用】</p>	<p>もともとフットサルではスライディングタックルは反則とされていましたが、2010年のルール改正により認められました。 フットサル部では選手の安全を考慮し、ローカルルールとしてスライディングタックルは禁止としています。 ※スライディングで相手に接触した・しないにかかわらず、以下の反則にならない場合意外には、レフェリーは必ず警告を提示してください。 ただし、得点機会の阻止に当たる行為は退場となります。</p> <p>【スライディング行為が必ずファールとなる訳ではありません。以下に“ならない場合”を説明します。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュートする選手のボールディスタンス範囲外の、シュートされたボールをブロックするスライディング行為。 ⇒ボールディスタンスにあるかないかはレフェリーの判断によります。スライディングはリスクもありますので気をつけましょう。 ・パスカットやラインアウト防止のためのスライディング行為。ボールディスタンス範囲外であることが前提です。 ・ゴールキーパーのスライディングタックルについて ⇒ペナルティエリア内でのボールへのスライディングタックルは過剰でない限り反則にはなりません。 ⇒ペナルティエリア外でのスライディングタックルは反則となり、少なくとも警告は覚悟しなければなりません。 また得点機会の阻止に当たる行為は退場となりますので気をつけましょう。
<p>ハンドリング</p>	<p>ボールを手で扱うことはできません。 サッカーやフットサルでは一番有名なファールですが、解釈を間違えている選手も多いため説明します。 “ボールが手に当たった”の“と” “ボールを手で扱う”の差で、意味が違います。後者が反則となります。 ですから、レフェリーから見てボールが選手の手にとただけと見なせば、反則を取らない場合がほとんどです。</p>
<p>その他 【ローカル適用】</p>	<p>タイムアウト:なし ファールの再開方法:PK 該当以外のファールは反則地点からのFK(5ファールは適用しない) 女性の得点:2点</p>

■ フットサルルール改正前と改正後の比較

項目	改正前	改正後(2010年8月以降)
スライディングタックル	スライディングタックル(相手競技者の保持するボールへのタックル)の禁止 ・相手チームの直接フリーキックで再開 ・ファールカウントの累積	サッカー同様の基準に改正されました。 スライディングタックルは、不用意に、無謀に、過剰な力でない限り認められます。 ただし、ピッチが限られたスペースの為、競技者を考慮しなければなりません。 フットサル部では、スライディングタックルは原則禁止とします。
バックパス	キーパーから出されたボールがハーフウェイを越える前に、あるいは相手競技者がボールに触れる前に、見方のキーパーに戻した場合は反則となり、違反地点から相手チームの間接フリーキックで再開となる。	キーパーから出されたボールが競技者に触れる前に、自陣内にいるキーパーにボールを戻した場合は反則となり、違反地点から相手チームの間接フリーキックで再開となる。 フットサル部では、旧ルールを適用し、相手選手がボールに触れるか、ハーフウェイラインを越えない限りキーパーへ戻すことはできません。
キックオフゴール	認められる	認められない。キックオフから直接得点することはできなくなった。
コーナーキックの4秒ルール違反	相手チームの間接フリーキックで再開	相手チームのゴールクリアランスから再開
キックイン	①ボールが蹴られる状態から4秒以内にスタート ②軸足がタッチラインを越えてはいけない ③ボールをライン上に静止させる	左記①②は引き続き適用 ③ライン上から外側25cmの範囲内に静止させる フットサル部では、③ボールはライン上に静止させることとします。
第2PKの4秒ルール違反	反則にはならない	ボールが蹴られる状態から4秒以内に第2PKを行う。 違反した場合は、相手チームの間接フリーキックで再開となる フットサル部では、第2PKは適用しません。
試合終了	試合時間終了を告げるブザーが鳴った時点で試合は終了となる	試合時間終了を告げるブザーが鳴った時に蹴られたボールは、その行方が見届けられ、ゴールした場合は得点が認められる。
最大交代要員	7名	10名
試合開始時の最小人数	5人いないと試合が開始できない	3人以上いれば試合が開始できる フットサル部では4人以上とします。

■ まれに起こりうる事例

キックインしたボールが	誰にも触れずに直接相手ゴールに入ってしまった。 ⇒ゴールとして認められません。 相手ゴールクリアランスからの再開 です。
	誰にも触れずに直接味方ゴールに入ってしまった。 ⇒(オウン)ゴールとして認められません。 相手側コーナーキックからの再開 です。
ゴールクリアランスが(を)	誰にも触れずに直接相手ゴールに入ってしまった。 ⇒ゴールとして認められません。 相手ゴールクリアランスからの再開 です。
	誰にも触れずに直接味方ゴールに入ってしまった。 ⇒ゴールとして認められません。ゴールクリアランスの 再度やり直し となります。
	した時に、キーパーの手からボールが離れたのが、ペナルティエリアの外側であった。 ⇒ハンドにはなりません(インプレーの成立要件を満たしていない)。ゴールクリアランスの 再度やり直し となります。
コーナーキックが	誰にも触れずに直接相手ゴールに入ってしまった。 ⇒ ゴールです
	誰にも触れずに直接味方ゴールに入ってしまった。 ⇒(オウン)ゴールとして認められません。 相手側コーナーキックからの再開 です。
インプレー中に	キーパーがボールを投げた時に、キーパーの手からボールが離れたのが、ペナルティエリアの外側であった。 ⇒ハンドです。ペナルティエリアライン上の反則のあった地点から、 相手の直接フリーキックからの再開 です。
	キーパーが投げたボールが、誰にも触れずに直接相手ゴールに入ってしまった。 ⇒ゴールとして認められません。 相手ゴールクリアランスからの再開 です。
	キーパーが蹴ったボールが、誰にも触れずに直接相手ゴールに入ってしまった。 ⇒ ゴールです
キックオフで	シュートし、誰にも触れずに直接相手ゴールに入ってしまった。 ⇒ゴールとして認められません。 相手ゴールクリアランスからの再開 です。